

平成29年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3
5 自己点検・評価総括表	6～14
6 平成29年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	15

はじめに

佐々町では、平成24年に第1期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

この間、小・中学校において新学習指導要領が全面実施になり、授業時数の増加や小学校における外国語活動の導入、言語活動の充実・理数教育の充実・道徳教育の充実等の改訂が行われました。その後も、国では「教育の再生」を最重要課題の一つとして掲げ「教育再生実行会議」において、「いじめ対策」「グローバル化への対応」といった具体的な事項から「教育委員会制度の在り方」等の基本的な制度改革まで幅広い検討がなされ、今後も急速な教育改革が予想されます。そのような中で、平成27年3月には新学習指導要領の一部改正が行われ「道徳」が「特別の教科 道徳」になるなどの大きな変化がありました。さらに、平成29年度中には平成32年の完全実施を目指した学習指導要領の改訂がなされました。

また、少子高齢化や国際化・グローバル化等のさらなる進展に加えて、未曾有の大災害の発生や全国的に顕在化した深刻ないじめ・体罰問題、情報モラルの問題など教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。

本町でも、平成27年10月に「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成28年度に「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」が策定され、教育が「まちづくり」に果たすべき役割も示されました。

これらの動きに対応して、電子黒板の全教室配置等の教育環境の充実や、町内の3つの小・中学校による3校共同研究の充実による教職員の研修機会の確保や、「佐々っ子応援団」活動の推進による学校・家庭・地域の連携の推進等を行い多くの成果を上げてきました。

平成29年度に策定した第2期佐々町教育振興基本計画は、これらの教育を取り巻く環境の急速な変化と第一期計画の成果と課題を踏まえた上で、「21世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」を目指して本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組んでいこうとするものです。

こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、平成29年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

平成30年11月

佐々町教育委員会

教育長 黒川 雅 孝

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は平成29年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」や「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連を図りつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにすることにした。

「活動指標」と「成果指標」を明確に分けることを試みましたが、活動がそのまま成果になる施策もあり、「活動指標」と「成果指標」が類似した設定となる部分も生じました。

また、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
 - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
 - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。
- なお、第2期佐々町教育振興基本計画の改善のため、評価は、平成28年度実績から行います。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏名	所属等	任期
川原 紀美雄	元長崎県立大学副学長	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
弥勒院 孚麿	元公立小学校校長	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(川原委員)

平成 29 年度の外部評価は佐々町教育振興基本計画、「21 世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」が本格的に動き出したので、その活動指標と成果指標を踏まえて外部評価を行っていきます。

21 世紀は本格的グローバル化、IT 化時代の到来期と言われています。佐々町においても振興計画として「21 世紀を豊かに生きる地域づくり人づくり」を理念として掲げ、その実現に向けて教育委員会においては英語教育、ICT 教育についての取り組みに努力がなされています。ただ成果指標をみますと、達成度は「ICT 機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合は A 評価ですが、ICT を活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合は C、身近なことを英語で話すことができる中学生の割合、県学力調査(英語)で 6 割以上理解している中学生の割合はいずれも D とまだ道半ばであるといえます。

ここ数年、継続的に進んできた不登校児童生徒の割合が改善したとの評価は特筆すべき成果といえましょう。とくに「21 世紀を豊かに生きる地域づくり人づくり」の前提として不登校児童生徒の解消は振興計画の促進体制が整ったと言えましょう！また「豊かに生きる地域づくり人づくり」の前提として、元気で活力ある児童生徒の育成には体力があることが重要だと思います。佐々町の自己評価では健やかな体を育成する教育の推進が活動指標として挙がっていますが、全国体力・運動能力、運動調査等における体力テストの結果が県平均を上回る調査項目の割合が、28 年度に続き 29 年度におきましても C 評価になっています。

また、振興計画におきましては「コミュニティ・スクール佐々モデル」の構築を推進することになっていますが、学校教育と社会教育の融合化をどう図っていくかが重要かと思われます。その意味で学校・家庭・地域の連携の推進、生涯学習・社会教育の推進、生涯スポーツの推進等が実施されていますが、各分野で評価が低い項目が散見されます。これら低い評価の改善が児童生徒の体力向上にも肝要かと考えられます。特に、少子高齢化が顕著に進む傾向を踏まえ、佐々町の高齢者の健康長寿化を推進する上で、「コミュニティ・スクール佐々モデル」を公民館活動の柱として、例えば従来型の「パソコン教室」ではなく高齢者の

ニーズ・健康長寿化を促進するような内容を意識した、「遠隔介護のためのパソコン教室」の開校等を検討されることを外部評価委員として強く提言するものであります。

(弥勒院委員)

○全体的な評価について

①全体として

活動指標の、ほとんどが「A」の段階にあり、佐々町の教育活動は全体的に良好な取組がなされています。他方、成果指標については、全体的には良好な状態であると思われませんが、評価の低い項目もあり、これらの改善のための方策を具体的に考える必要があります。

特に、昨年に引き続き低調な項目や「現状値」より低下した項目については、原因を分析し改善策を考える必要があります。

現在の形式での評価は2年目となりますが、佐々町の教育の全体的な状況は把握しやすく、佐々町教育振興基本計画の進捗状況の確認に役立てるとともに、昨年10月に設置した、学校運営協議会において「学校評価」として活用し、地域に開かれた教育課程の推進に役立てて欲しいと思います。

②活動指標について

ほとんどが 4.0 と、佐々町の教育は「やるべき事はきちんとされている」という良好な状態にあると考えられますが、3.0 の項目が1つあります。活動指標が 4.0 になっていない項目については、その理由と今後の対応について所見欄に記載するようにしてはどうでしょうか。

③成果指標について

今回、「佐々町教育委員会自己点検・評価の変更」が提起されていますが、この改善によって、より現実的な指標としての目標値にすることによって Check の機能の向上を期待します。

なお、成果指標が達成できていない項目については、その理由と今後の対応について所見欄に記載するようにすれば、Check が Action と 連動することになり大きな改善につながると考えます。

○項目別の評価について

<学校教育関係>

全般的には良好です。昨年度より達成度が5%以上向上した項目数が9項目、5%以上低下した項目が4項目です。

特に大きく向上したのは、「自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合」「佐々町学力調査の到達度」「個別の支援計画の作成率」「全国体力・運動習慣等調査における体力テストの結果が県平均を上回る調査項目の割合」「体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合」「食」に関する栄養教諭による指導回数」でした。いずれも、佐々町の教育振興のために重要な項目であり、改善への努力を高く評価します。また、「いじめの解消率」の100%の維持、「不登校生徒の割合」の低下も高く評価できます。

他方、「身近な事を英語で話すことができる中学生の割合」「県学力調査(英語)で6割以上理解している生徒の割合(中学校)」が大きく低下しており、大きな課題として早急な対応が必要です。

<社会教育関係>

全般的に改善されており、良好です。昨年度より達成度が5%以上向上した項目数が9項目、5%以上低下した項目が6項目です。

特に大きく向上したのは、「土曜学習参加児童数」「各種講座参加者数(年間)」「公民館活動参加者数」「読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)」「スポーツイベントへの参加者数」「文化にかかわる発表会への参加者数」「社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数」「文化にかかわる発表会への参加者数」でした。

これらの多くが参加者の増加であり、佐々町において魅力ある社会教育がなされていることが伺えます。運営の担当者の努力の成果ではないかと考えます。

他方、「放課後子ども教室参加児童数」「子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数」は大きく低下していますが、元々、達成率が100%を大きく越えていたり、目標値が2回と小さい項目であり、29年度の取り組みに齟齬があったとは考えられません。

○佐々町教育委員会自己点検・評価の変更について

昨年度指摘した事柄に対する改善であり、適切な見直しであると考えます。今後も必要に応じた見直しを行い、より実効性の高い自己点検・評価としていくことが必要であると考えます。

ただし、今回は「初めての実施」に対する見直しであり、大きな見直しとなっていますが、継続性及び目標値や評価の信憑性を担保する上で、今後は事業変更等による必要に応じた最小限の見直しとすべきと考えます。

平成29年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

平成29年4月より第2期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしましたが、評価については平成28年度実績から行い、その改善に資することとしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	121	99.5%	100.0%
B	0	1	0.5%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
計	96	122	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	67	77.9%	83.7%
B	5	5.8%	
C	8	9.3%	
D	6	7.0%	
計	86	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	A	A
3 健やかな体を育成する教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 教育環境整備の推進	A	A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
7 生涯学習・社会教育の推進	A	A
8 生涯スポーツの推進	A	A
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	A
10 新たな地域文化創造の推進	A	B

平成29年度 教育委員会自己点検・評価

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 基礎的・基本的な学習の充実	1	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	1	3校研における公開授業の開催数	3回	3回以上	3.3	111.1%	A	実態調査	
		2	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	2	「ICT機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合	69%	90%以上	94.9	105.5%	A	学校運営調査	
		3	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	3.7	A	3	自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	58%	70%	67.3	96.1%	A	全国学力調査	
		4	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A									
		5	学校訪問による指導	4.0	A	経年経過研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		6	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		7	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		8	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		9	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		10	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		11	サポート・ティーチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		12	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		13	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	3.7	A									
		14					家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A								
		15					授業規律の徹底	学校等	4.0	A								
		16					校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
	17	② 知識・技能の習得と活用する力を育む取組の推進	17	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A	4	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
	18		体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動実施の効果的な実施	学校等	4.0	A	5	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査	
	19		佐々町学力調査実施・活用への支援	4.0	A	佐々町学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	6	佐々町学力調査の到達度	1.00	1.00以上	1.07	106.6%	A	町学力調査	
	20		全国学力調査実施・活用への支援	4.0	A	全国学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	7	全国学力調査の到達度	0.99	1.00以上	0.95	95.0%	A	全国学力調査	
	21	③ 学校間の連携の推進	21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	8	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査
	22		「佐々つ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々つ子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	9	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	23					中学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A	10	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	24					両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A									
	25	④ 情報教育の推進	25	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	11	ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合	68%	100%	67.7	67.7%	C	学校運営調査
	26		ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	12	授業中にICTを活用して授業ができる教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	
	27					タブレットPCの効果的な活用	学校等	3.7	A									
	28					情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A									
	29					情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A									

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	⑤ 外国語教育・国際理解教育の推進	30	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	13	英語による簡単なコミュニケーション活動ができる小学生の割合	94%	95%	92.9	97.8%	A	学校運営調査
		31	外国語活動の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	外国語活動の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	14	身近なことを英語で話すことができる中学生の割合	51%	70%	37.0	52.9%	D	学校運営調査
		32	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	3.0	B	15	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	43%	70%	13.0	18.6%	D	実態調査
	⑥ キャリア教育の推進	33	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」講話の実施	学校等	4.0	A	16	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	93%	100%	88.4	88.4%	A	学校運営調査
		34				勤労・生産的な学習の実施	学校等	4.0	A	17	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	64%	100%	73.0	73.0%	B	学校運営調査
		35				職業調べの実施	学校等	4.0	A								
		36				職場見学の実施(小学校)	学校等	4.0	A								
		37				職場体験の実施(中学校)	学校等	4.0	A								
	⑦ 幼児教育の推進	38	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	幼稚園	4.0	A	18	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		39	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	幼稚園	4.0	A								
		40	幼稚園就園奨励費事務の適切な実施	4.0	A	小学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A								
	⑧ 特別支援教育の推進	41	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	19	個別の教育支援計画の作成率	70%	100%	100.0	100.0%	A	特別支援教育調査
		42	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	20	特別支援教育を理解している教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査
		43	就学指導委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談・指導体制の確立	学校等	4.0	A								
		44	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A								
		45	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる校内研修会の開催	学校等	4.0	A								
		46	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A								
		47				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A								
48					個別の教育支援計画の作成	学校等	4.0	A									

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 90.6%	総合評価: A
所見(幼稚園)	九州国公立幼稚園・こども園教育研究大会において、分科会公開保育を実施したことで、幼児理解が深まり、適切な指導をしたことにより、幼児の可能性を引き出すことができた。絵本の読み聞かせ、体操教室、英語教室、地域の方との関わりの中で、園だけではできない「可能性を伸ばす教育」ができた。					
所見(佐々小)	一人一人の可能性を伸ばす教育の推進については、教育支援員及びICT等を適切に活用し、校内研究による授業改善を軸に確実に成果が上がっている。学力検査等の結果においても、年々確実に向上し、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も今の指導方針を継続し、さらに学力向上を図り、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指す。また、通級指導教室が一昨年度設置され、特別支援教育の指導体制が確立できた。その結果、情緒的に不安定だった児童の多くが、落ち着いた学校生活を送っており、学校全体の雰囲気も大きく変わった。学習に挑む児童の姿にも安定感があり、今後の学校全体としてのさらなる飛躍を期したい。					
所見(口石小)	学力向上の取組として、授業の質の向上や過去の調査問題活用に向けてきた結果、平成29年度の各学力調査においても一定の成果が見られた。しかし、多くの児童が思考力・判断力・表現力を授業において十分に発揮できていない現状もあり、さらなる向上に努める必要がある。今後は、言語活動の充実を目指す授業改善と効果的・効率的な調査問題活用が重点的な取組となる。					
所見(佐々中)	平成29年度から通級指導教室を設置し、特別支援教育の充実が図られた。しかし、通常学級に特別な支援が必要な生徒が各学年に10名程度いて対応に苦慮おり、今後の課題である。また、全国学力調査、県学力検査、佐々町学力調査では、平均点(到達度)を超えることができなかった。特に、英語については危機意識をもち、授業改善を行い学力向上に努めていきたい。					
所見(委員会)	平成30年度から移行期間に入る小学校外国語活動に関わる授業時数増に対応するために、土曜授業の実施について検討した。児童・生徒が学びやすい教育環境の充実整備に努め、引き続き、町独自の学力調査や児童生徒理解支援業務など学力向上に資するための支援を行った。また、3校共同研究の開催やALT・学力向上支援員等の配置のほか、電子黒板やタブレットを使ったICT教育についても、引き続き推進した。就学前指導、幼児教育の推進については、就学時健康診断や私立幼稚園就園奨励費補助金支給を実施し、該当児童世帯への補助及び指導を実施したほか、特別支援教育の推進を図るため、学校や関係機関と適宜連携した。					

2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)	
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 3.9 総合評価: A	評価平均: 92.3% 総合評価: A	
	所見(佐々小)	学級経営を軸とした人間関係の構築と活性化を図るために、授業改善、教育活動の充実を進めている。この成果はQU検査結果からも明らかになっている。さらに、実践力を高めるために、体験活動の充実を図っている。道徳教育、人権教育、平和教育と教室で学習した内容が、日常生活等において実践につながるよう、特別活動等を中心に体験活動の充実を図っている。また、図書館教育については、昨年度「読書活動推進校表彰」を受けたことにより、読書活動に取り組もうとする意欲の高まりが学校全体にある。読書活動を推進することで、読書冊数の増減のみに視点を置くことなく、豊かな人間性を育むということをねらいとした活動を展開する。			
	所見(口石小)	職員は、児童間のトラブルや問題行動に親身になって対応にあたり、そこにかかりの労力と時間を費やしている。こうした職員の姿勢に支えられている面が大きい。日々の授業や活動を通して人権感覚や奉仕的精神等が育まれている。基盤は学級にあるため、QU検査やチェックの結果に照らしながら、学級内での安定した人間関係の構築を図る。			
	所見(佐々中)	いじめ問題においては、まず、いじめを許さない態度・雰囲気の醸成に取り組み、発生時には、いじめ防止基本方針に沿って迅速かつ適切な対応に努めた。また、長崎っ子の心を見つめる教育週間の取組、道徳の授業、平和集会、人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を実施した。学校図書館の貸出冊数が伸び悩んでおり読書活動の充実については、今後の課題である。			
所見(委員会)	平成30年度から教科化される小学校道徳の教科書を公正に採択し、年間指導計画の作成を各小学校に指導した。前年度までに引き続き、「佐々っ子応援団」を通じて、学校・家庭・地域が一体となって道徳心を養う取組を行った。そのほか、読み聞かせグループによる読書活動の推進、体験活動としてスポーツ推進委員によるサマーキャンプの実施など、学校及び関係団体と連携しながら豊かな人間性や社会性を育む教育の推進を行った。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
3 健やかな体を育成する教育の推進	① 体力向上の取組の推進	76	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力テストの結果が県平均を上回る調査項目の割合	40%	80%	48.3	60.4%	C	体力運動能力調査
		77	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	84%	85%以上	90.7	106.7%	A	体力運動能力調査
		78				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	89%	90%以上	89.4	99.4%	A	体力運動能力調査
		79				スポーツテスト結果の有効活用	学校等	3.3	A								
	② 望ましい生活習慣を身につける取組の推進	80	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	就寝時刻(中学生12時より早い時刻、小学生10時より早い時刻)	小:72%	80%	69.8	87.3%	A	学校運営調査
		81	佐々っ子応援団活動の推進	4.0	A	「あいさつ」指導の徹底	学校等	4.0	A			中:77%		78.0	97.5%	A	
		82				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	起床時刻(6時30分より早い時刻)	75%	80%	72.2	90.2%	A	学校運営調査
	③ 食育の推進	83	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数	データなし	50回	73.0	146.0%	A	実態調査
		84	給食の充実に関する支援	4.0	A	栄養教諭を活用した食育指導の実施	学校等	3.7	A	39	朝ご飯の摂取率	99%	100%	97.9	97.9%	A	学校運営調査
		85				給食指導の充実	学校等	3.7	A								
		86				個別的な健康相談の実施	学校等	3.7	A								

3 健やかな体を育成する教育の推進	評価	項総合評価(活動指標)	項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)	
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 3.9 総合評価: A	評価平均: 98.2% 総合評価: A	
	所見(佐々小)	体力向上の課題が明確になっており、その改善を図るために今年度より日課の中に体力向上の時間を設定した。運営は体育委員会が行うことで、児童の主体的な取組による体力向上を目指す。さらに、これまで以上に体育の時間の充実を図るための手立てが、学年に応じて講じられている。体育の学習内容が学校行事や体験活動とのつながるよう意図的に設定し、年間を通じた体力向上に努める。また、生活指導及び保健指導については、これまでの取組が定着し、児童及び保護者にも指導方針が浸透している。現在の教育活動の継続を基本とし、さらに工夫改善を図る。さらにマンネリ化しないよう新たな視点を加えていく。			
	所見(口石小)	全学年に渡り、柔軟性に課題があるという体力テストの結果を受け、県が推奨する「ジャックナイフ・ストレッチ」を体育の授業に取り入れれたり、体育主任が運動の紹介をしたりと、体育授業の中で改善を図っている。体育の学習は好きだという児童は多いが、体育の時間以外の運動に進んで親しんでいる児童の数は決して多くない。本校の特色ある取組等を生かして、児童の意欲を高めたい。			
	所見(佐々中)	男女共修による授業や多くの競技に親しめる機会を設定した。また、スポーツテストの個人分析は、自分の体力等の特性を知り、改善する指導に生かしたが、県平均を上回る項目が80%に達していない点については今後の課題である。食育については、日課の関係上生徒への栄養教諭(学校栄養職員)による食育指導はほとんどできていないが、「食育だより」の発行等で生徒、保護者へ啓発している。			
所見(委員会)	本町児童・生徒の課題である柔軟性の向上のため、「ジャックナイフ・ストレッチ」を計画的・意図的に行うよう各学校に指導した。両小学校の6年生を対象とした陸上記録会、土曜学習による「佐々っ子スポーツ塾」を引き続き開催し、内容の充実を図ってきた。さらに、健全な生活習慣を更に定着させるため、「佐々っ子ゆめプラン」を通じて学校と家庭の連携を図りたい。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	87	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		88	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.06	県平均以下(1.18)	0.6	196.7%	A	実態調査
		89	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返し指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	91.4%	95%	90.0	94.8%	A	全国学力調査
		90	問題行動対応への適切な指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	71.0%	80%	75.7	94.6%	A	全国学力調査
		91	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査
		92	不登校対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査
	93	SC、SSW、心の相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の相談員の配置	各校に配置	現状維持	1.3	100.0%	A	実態調査	
	② 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	94	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	47	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		95	新たな学校運営のあり方についての研究	4.0	A	新たな学校運営のあり方についての研究	学校等	4.0	A	48	学校評価の公表	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		96				学校だより、学級だよりの発行	学校等	4.0	A	49	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	98.7	98.7%	A	学校運営調査
		97				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A								
	③ 教職員の指導力の向上	99	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	50	町教委主催の各主任研修会の開催数	12回	12回以上	12.0	100.0%	A	実態調査
		100	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達	学校等	4.0	A	51	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.3	111.1%	A	実態調査
101		3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A									

大項目	中項目	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)		
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 108.0%	総合評価: A	
4 信頼される学校づくりの推進	所見							
	所見(佐々小)	学校運営協議会を設置し、昨年度以上に学校情報の公開を進めている。特に、学校運営協議会においては、学校運営に関わる学校評価等の資料や主な教育活動の計画等の情報提供を行い、学校運営全般について協議している。また、保護者や地域に対して、職員一人一人と顔が見えるつながりを構築するよう様々な場面を意図的に設定した。校内研究については、今年度3年目を迎えており、校内においては、練り上げられた内容となりつつある。そこで、さらに広い視点、違った視点からの意見を聞く機会として、平成30年度に研究発表の開催を予定している。教職員が研究主任を中心に主体的に進めており、さらなる学校力向上の契機としたい。						
	所見(口石小)	各分掌担当が、職員との連携を取りながら校務にあたっている。特に、いじめや不登校を含めた生徒指導や特別支援教育においては、生活指導主任と特別支援教育COが中心になり、組織的な対応ができるよう努めている。学校評価については、年間2回実施し、保護者や地域、学校関係者に公表している。評価結果やアンケートに記載された意見を取り入れようと努めている。						
	所見(佐々中)	信頼される学校づくりを推進するために、教職員の資質・能力の向上を始め、問題行動に対する早期発見・早期対応に努めた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより、食育だより等の定期的な発行に努めた。また、教育相談等には、Qu検査やi-checkの心理検査の分析結果を活用し、不登校対策についても効果が現れてきている。						
所見(委員会)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の配置により、子どもや保護者を支援し、関係機関との連携を図った。また、引き続き、心理検査(QU検査及びi-check)を行うことで、学校生活、満足度等を把握し、不登校対策やいじめの予防に努めた。学校、家庭、地域との連携を図るため、10月に町内3校をコミュニティ・スクールに指定した。教職員の指導力向上のため、県や町教委主催による研修や、3校共同研究の推進により、教職員の研修が推進できた。今後も更なる研修機会の充実を図っていく必要がある。							

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備の推進	① 子どもの安全確保対策の推進	102	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	52	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		103	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	53	避難訓練の実施回数	小学校:3回 中学校:2回	現状を維持	2.7	100.0%	A	実態調査
		104	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A	54	佐々っ子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	100人	60	60.0%	C	後期計画
		105				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	55	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)			学校等項総合評価(活動指標)			項総合評価(成果指標)									
		達成度平均: 4.0 総合評価: A			達成度平均: 4.0 総合評価: A			評価平均: 90.0% 総合評価: A									
		所見															
		所見(佐々小)	交通事故や生活事故等の発生時には、管理職を中心に危機管理マニュアルに沿って適切に対応することができた。教育活動において、児童の生命や安全を第一とした取組を随時確認している。また、事故発生時を想定し教職員の動きを指導しており、万全の体制で教育活動に取り組んでいる。さらに、平成30年度は、不審者対応の訓練を保護者と連携して行う予定である。今後も、様々な状況を想定して、事故、災害、不審者への訓練を行っていく。														
		所見(口石小)	交通事故や生活事故等が起きた場合は、危機管理マニュアルにそって、対応することができた。職員に対して、常時の危機意識を高めるためにも、随時指導を繰り返していく。保護者、地域から通学路の危険箇所や不審者情報が寄せられるようになった。警察等、関連機関との連携の強化に努めていく。														
所見(佐々中)	自転車通学の生徒を対象に、自転車点検及び講習会を実施した。また、全校集会等で、自転車の正しい乗り方や交通マナーについて指導している。																
所見(委員会)	青少年健全育成会と連携して子どもの安全対策に努めた。通学路安全推進会議を開催し、危険箇所の現地確認を関係機関と行い対策を講じた。																

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
6 学校・家庭・地域の連携の推進	① 地域教育力(放課後対策等)の充実	106	放課後子ども教室の開催	4.0	A					56	放課後子ども教室参加児童数	60人	150人	469	312.7%	A	後期計画
		107	土曜学習の開催	4.0	A					57	土曜学習参加児童数	データなし	450人	828	184.0%	A	実態調査
		108	佐々っ子応援団活性化への取組	4.0	A					58	佐々っ子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	100人	60	60.0%	C	後期計画
	② 地域教育を担う人材の育成	109	地域の担い手の発掘と育成への取組	4.0	A					59	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	94	94.0%	A	実態調査
		③ 青少年健全育成活動の支援	110	佐々っ子ゆめプランの啓発の支援	4.0	A	佐々っ子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A	60	佐々っ子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	100人	60	60.0%	C
	111		佐々っ子応援団活性化への取組	4.0	A												

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
6 学校・家庭・地域の連携の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)			学校等項総合評価(活動指標)			項総合評価(成果指標)									
		達成度平均: 4.0 総合評価: A			達成度平均: 4.0 総合評価: A			評価平均: 142.1% 総合評価: A									
		所見															
		所見(佐々小)	昨年度より校長が登校時校区内安全指導を毎日実施している。さらに、年度末にあいさつ運動に参加されている方々を学校にお招きし、感謝の集会を開催した。このような取組から、あいさつ運動に参加されている方々と学校のつながりが一段と深まり、児童や参加者にとって、心温まるあいさつ運動となりつつある。また、PTA広報誌へのあいさつ運動参加者紹介が行われており、保護者の中にも感謝の意を伝えられる方が見受けられる。今後も、あいさつ運動参加者とのつながりを深めるあいさつ運動として定着させていく。														
		所見(口石小)	地域の方々の協力で、あいさつ運動や登校時の見守りが充実している。こうした地域の方々に対する感謝の気持ちを、学校として保護者として高めていくことで、児童のあいさつへの意識や地域を愛する心情にも結びついていきたい。														
所見(佐々中)	佐々っ子ゆめプランについてアンケートを保護者にとり、集計・分析を行っている。中学生も多くに地域の方々に朝の登校等を見守っていただいている。職場体験(中2)では、地域の多くの事業所等に協力をいただいている。																
所見(委員会)	昨年度に引き続き「佐々っ子土曜学習プログラム」を開設し、町内社会教育団体等へ事業を委託して、3つの学習プログラムを開催した。放課後子ども教室について、「さざっ子ワクワクまなびタイム」を3回開催し、子どもの体験学習の機会の提供に努めた。「学校・家庭・地域との連携を図る特色ある教育活動」として、佐々っ子応援団活動を実施し、社会教育分野から地域住民の協力による学校支援活動の推進に取り組んだ。																

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
7 生涯学習・社会教育の推進	① 生涯学習機会や内容の充実と支援	112	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	61	各種講座参加者数(年間)	481人(H26)	2,000人	917	45.9%	D	後期計画
		113	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	4.0	A	62	公民館活動参加者数	365人	700人	576	82.3%	A	後期計画
										63	講座参加者の満足度	データなし	70%以上	95.0	135.7%	A	後期計画
	② 読書機会の充実	114	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	64	町民一人当たりの貸出冊数	13.3冊(H25)	増加	10.8	80.6%	A	後期計画
		115				「読み聞かせ」の実施	図書館	4.0	A	65	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)	15世帯程度	20世帯	30.0	150.0%	A	後期計画
	③ 人権教育の推進	116	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	66	人権に関する講座の開催数	1回	1回以上	3	300.0%	A	実態調査
	④ 大学などと連携した学習機会の充実	117	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	67	県立大学と連携した講座や活動の実施数	4回	6回	4	66.7%	C	実態調査

7 生涯学習・社会教育の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 123.0%	総合評価: A
所見		学習グループ活動や主催講座(料理教室、薬草講座)、公民館フェスティバル開催など、学びを提供できる環境は整っている。さらなる利用者増を図るため、主催講座を充実させたい。					
所見(公民館)		地域住民の方々に図書館の魅力を発信するよう、講座・講演会を開催した。また、時季にあったイベントの実施、特設コーナーに工夫を凝らし、選書を充実させるなど利用者の拡大を図った。今後は、団体利用者の活用促進、視聴覚資料の館外貸出などニーズに応じた案件の十分な検討協議が必要となる。					
所見(図書館)		各世代の学習ニーズに応えるため、各種社会教育講座及び公民館講座、図書館講演会等を開催したほか、佐々町の歴史をテーマとした特別講座「佐々歴史悠学」を年4回開催し、郷土学習の機会提供に努めた。					
所見(委員会)							

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
8 生涯スポーツの推進	① 社会体育団体の活動の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	スポーツ団体	4.0	A	68	スポーツ少年団各部への登録者数及びクラブ数	254人	350人	216	61.7%	C	後期計画
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	スポーツ団体	4.0	A			14部	17部	13	76.5%	B	
	② 子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントの推進	120	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	スポーツ団体	4.0	A	69	スポーツイベントへの参加者数	約2,000人	3,000人	2,900	96.7%	A	後期計画
		121				スポーツイベントの運営	スポーツ団体	4.0	A	70	体育協会各部への登録者数及びクラブ数	365人	500人	336	67.2%	C	後期計画
	③ スポーツ指導者の育成	122	スポーツ指導者の育成・確保	4.0	A	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ団体	4.0	A			16部	18部	14	77.8%	B	後期計画
	④ 体育施設の有効活用	123	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	スポーツ団体	4.0	A	71	社会体育施設の利用者数	117,000人	現状を維持	113,476	97.0%	A	実態調査
		124	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A					72	維持管理、運営手法の検討	未検討	改善	検討実施	100.0%	A	

8 生涯スポーツの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 82.4%	総合評価: A
所見		スポーツ少年団としては、各種大会で好成績を収めたり、体育協会としても各部主催大会をそれぞれの協議で開催し、町のスポーツ振興に貢献している。					
所見(スポーツ関係団体)		スポーツ少年団員、体育協会員ともに減少の傾向はあるものの、「ジョギングフェスティバル」の参加申込方法について、インターネット申込等を導入した結果、エントリー数が増加した。子どもから大人まで幅広い年代層が更に参加しやすく、満足度の高い大会運営になるよう、今後も検討を行っていく。					
所見(委員会)							

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 自主文化事業の開催	125	自主文化事業の開催	4.0	A					73	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	2,779	92.6%	A	実態調査	
	② 学校教育における郷土教育の推進	126	「佐々町博士」の編集・改訂	4.0	A	「佐々町博士」の活用	学校等	4	A	74	「佐々町博士」(歴史分野)の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	③ 社会教育講座と公民館講座との連携	127	郷土史学習の推進	4.0	A	郷土史学習の実施	公民館	4	A	75	社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数	5回	増加	8	133.3%	A	実態調査	
	④ 文化遺産・歴史遺産の保存と活用	128	文化財の適切な保存・保護	4.0	A						76	旧郷土資料館収蔵物の適切な保存	価値評価実施	適切な保存	検討委開催	100.0%	A	
		129	文化遺産・歴史遺産についての広報	4.0	A						77	町指定文化財数	11件	15件	11	73.3%	B	後期計画
										78	佐々歴史リーフレットの改訂	-	完成・配布	未実施	-	-	-	

9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4	総合評価: A	評価平均: 99.8%	総合評価: A
所見(学校)		(佐々小)平成29年度より、新しい佐々町博士を活用して学習した。児童にとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、児童の興味・関心を高める場面においては、有効である。「佐々町博士」を窓口、郷土教育をさらに広げていきたい。(口石小)4年生の総合的な学習の時間において、「佐々町博士」を活用した郷土学習を行っている。教育委員でもあられる舩さんに来校していただき、佐々町の歴史について資料をもとにした講話は、児童のよい学びの場となった。					
所見(委員会・公民館)		町民文化祭や佐々青少年音楽祭、さざ公民館フェスティバルの開催を通して、町民文化の向上に努めた。旧佐々町郷土資料館収蔵品保存方法については、検討委員会を開催し、収蔵品保存に係る整理基準の策定を行った。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
10 新たな地域文化創造の推進	① 町民主体の文化芸術活動への支援	130	芸術・文化活動への支援	4.0	A					79	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	2,779	92.6%	A	実態調査	
	② 子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	131	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	80	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数	2回	2回以上	1	50.0%	D	実態調査	
	③ 施設の有効利用と管理運営	132	施設利用の促進	4.0	A						81	文化会館年間利用者数	29,500人(H26)	増加	28,618(H29)	97.0%	A	後期計画
		133	施設の適切な維持管理、運営方法の検討	4.0	A						82	維持管理、運営方法の検討	未検討	改善	検討実施	100.0%	A	実態調査
④ 地域交流センターの利用促進	134	地域交流センターの利用促進	4.0	A						83	地域交流センターの利用者数	データなし	35,000人	18,053	51.6%	D	総合戦略	

10 新たな地域文化創造の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 78.2%	総合評価: B
所見(学校)		(佐々小)昨年度より、全校音楽を定期的に取り入れ、合唱に対する児童の意識が変容している。来校者への御礼等、適宜全校合唱を披露し、合唱の喜びや芸術に対する親しみを感じさせる。さらに、平成29年度は、清峰高校吹奏楽部演奏会、いっちゃんコンサート、佐々町音頭、おくち参加、学校保健委員会によるみそ汁レシビ等、多種多様な芸術・文化と接する機会を設け、情操教育の充実を図った。(口石小)11月の学習公開日は、午前由各学年による学習発表や音楽発表を、午後に芸術に触れる機会として、劇の公演を企画した。児童が芸術や文化に触れる機会として、今後も大事にしたい行事である。(佐々中)平成29年度は、古典芸能として「笑いの芸能『寄席』」を全校生徒で鑑賞し、本物を観ることでとても貴重な体験になった。					
所見(委員会)		町内小・中学校や文化協会等の各種団体と連携し、町民文化祭を開催した。H29.4月に供用開始した地域交流センターについては、社会教育関係団体やスポーツ団体等へ施設利用を周知したが、目標値には達成しなかった。次年度以降も、利用者の拡大を図ってきたい。					

平成29年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	平成29年度佐々町教育方針を定例教育委員会で決定した。また、「佐々町いじめ防止基本計画」の一部改定を審議し、承認した。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。	A	町立佐々幼稚園の廃園(平成30年3月31日付)を決定した。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		該当事案はなかった。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	教育予算及び町立幼稚園の廃園に関する条例の制定について意見を申し出た。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	「佐々町立幼稚園保育料条例施行規則の改正」「佐々町学校運営協議会規則」「佐々町立幼稚園保育料条例施行規則及び佐々町立幼稚園管理規則を廃止する規則」「佐々町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則」「佐々町体育施設管理規則の一部を改正する規則」について審議し、承認した。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	県北地区教科書採択協議会において、教科用図書の採択に関する基本方針を定め、小学校道徳教科書の採択を行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。	A	事務局から提出された「佐々町立小中学校施設整備構想」について協議した。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。		該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。	A	学校歯科医1人を委嘱した。また、廃業により学校医1名を解嘱し、その後任として学校医1人を委嘱した。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の研修は定めていないが、校長・教員については、毎月1回の定例研修会を開催している。その他、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。	A	「部活動における適切な休養日の設定」について審議し各学校に通知を発送した。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。	A	「佐々町学校給食食物アレルギー対応マニュアル」の一部改定について、承認した。
16	文化財の指定に関すること。	A	「前佐々町郷土資料館収蔵品保存方法検討委員会」の一次答申を受け、現在の収蔵品の鑑定作業を行い、郷土資料としての保存の適否、選別方法等について審議し、承認した。